

平成 23 年度卒業証書授与式 学校長式辞

平成 24 年 3 月 10 日

乗松 尋道

本日、平成 23 年度卒業式を谷川宇多津町長様以下多数のご来賓、保護者の皆様ご参加の下で開催できますことを、学校を代表して感謝申し上げます。

卒業生の皆さんが、本日卒業を迎えられるのは、大麻理事長をはじめとする学園・学校の多くの教職員、保護者の皆様の支えがあったことであることをどうか心にとどめておいて頂きたいと存じます。

皆さんは本日をもって 3,500 名有余を数える本校同窓生の仲間入りをし、各人が異なった領域の医療人として活躍される一步を踏み出されることをお喜び申し上げます。皆さんが始められる医療の現場は、想像以上に発展してきています。中国の伝統医学であっても、西洋医学であっても先人たちの努力の積み重ねで今日の発展があります。今日まで不治の病とされてきた疾患の多くがその治療法が開発され、治癒が期待されるようになってきました。皆さんもご存じのように、先日、天皇陛下が心冠動脈バイパス手術を受けました。一昔前まではこの手術は危険性を伴うものでしたが、現在では天皇陛下のお年でも熟練した心臓外科医が執刀すれば安全で、治療効果が期待できるようになっています。

今後において、このような医療の発展がますます起こるとしても、私たち医療人が備えていなければならない患者さんに対する心構え、基本的な倫理観は変わるものではありません。このことについて、皆さんは3年間、4年間にわたる修学で勉強されてきたこととは思いますが、社会に巣立っていく今日、もう一回確認して頂きたい。

- ・ その一つは、患者さんの立場に立った接し方をして頂きたいことです。
- ・ 2つ目は、医療は私たち医療人のみが行うのではなく、患者さんとともに行うことを心にとどめて下さい。すなわち、患者さんには、自分の病気を自分でも積極的に治していくのだということを理解してもらわねばなりません。
- ・ 3つ目は、患者さんの理解を得るためにはインフォームドコンセントの基本をとって頂きたいことです。すなわち患者さんが理解する言葉、話し方で病状、診断、治療内容を説明し、患者さんからの同意を得てから、治療を始めるようにして下さい。

このような患者さん中心の医療を行いながら、皆さんの経験を積み重ね、自分自身の診断法、治療技術を身につけるように研鑽頂きたいと思っております。本日は誠にありがとうございました。皆さんお一人お一人の成長を期待しています。